

## 4. 天井面部位。～ 玄関ポーチ(平天井)

- 内部天井面部位と同じ手順によること。

※現在の玄関(ポーチ屋根庇付)では玄関正面は建具付戸締りとなっている。古来の玄関は正面開放型であった。駕(籠)寄せ・馬車寄せの正面に玄関があり、土間と式台が付き、供待ちの間・取次の間(土間と脱帽室を合併した総称)、などと呼んでいた。

## 4' 裏板面部位。～(化粧裏板材)

※裏板材----軒部分・庇部分・桔出しバルコニー部分などの裏板化粧材。

- 「化粧板・合板・ボード・金属板」----働き幅・働き長さ、割付け必要数値を算出し、梱包入数を調べ、「梱包」所要数量とし、「必要数値」を設計数量として、記載する。
- 「特注加工木材板等」----加工働き幅・働き長さ、割付け必要数値を算出する。「椀立幅・厚さ・長さ・形状等」.(枚 $\times$ m<sup>2</sup>～束数)、を所要数量とし、「必要数値」を設計数量として、記載する。

※目地材・取合散り仕舞い材等、計測・計算(積算)必要数値を算出し、設計数量として明記。または記載する。

- 左官工事による塗り吹付け仕上げ。---
  - 塗装工事による塗り仕上げ。-----
  - その他工事の仕上げ。-----
- 計測・計算による算出数値(m<sup>2</sup>)を「設計数値」として記載する。特に必要な場合は「必要数値」や「所要数値」を明記すること。

## ◎ 外部面状部位のまとめ

- 「外部面状部位」の計測・計算の手順として、土間・床面・腰面部位(建物基礎部分)(腰壁部分)・壁面・天井面・裏板面・の表面仕上げ面積をまず算出し、仕上げ材種・工法により、「設計数量」・「必要数量」・「所要数量」を算出し、次には下地材・捨材(合板・ボード・下地板・桧木)は仕上げ面積を基準として各項に記載の(参考資料数値(係数))より、「必要数量」・「所要数量」を算出する。
- 壁面積(設計数量)のチエックに付いて、(桁行・梁間を2対1以内を基準)
  1. 外壁面積(設計数量)に付いて、床面積30～45坪(100～150m<sup>2</sup>)位の場合で、  
床面積  $\times$  1.4 ～ 1.5 = 外壁面積(設計数量)を基準平均値とする。
  2. 外壁面積(設計数量)に付いて、床面積100～150坪(330～500m<sup>2</sup>)位の場合で、  
床面積  $\times$  1.0 ～ 0.9 = 外壁面積(設計数量)を基準平均値とする。

※6～7%以上の違いがある場合は、再積算チエックの必要あり。
- 壁塗り面下地板の概算数量に付いて、(1間=1.820を基準として、)  
壁面積(m<sup>2</sup>)  $\times$  1.10 ～ 1.15 = 下地板(m<sup>2</sup>)(端数切上げ)を基準平均値とする。
- 壁塗り面下地ラスの必要概算数量に付いて、(壁面の形状により異なる)  
壁面積(m<sup>2</sup>)  $\times$  1.17 ～ 1.20 = ラス必要面積(m<sup>2</sup>)を基準平均値とする。